

原

村

百

景

悠久の歴史



1 阿久遺跡(国史跡)
縄文時代の遺跡。日本最古級の環状集石群がありました。埋め戻された遺跡は、当時を想定した広葉樹の林に整備され、晴れた日には蓼科山と八ヶ岳連峰の眺望が素晴らしい。



2 虚空蔵菩薩と物見ヶ岡
毎年夏、富士見町御射山神戸区民の方々が、諏訪大社から神輿を担いで御射山神社まで向かう途中に立ち寄り神事を行う所。物見ヶ岡は、この御射山神事の際に立ち寄った所。



3 縄文土器
前期から後期まで縄文時代を通じて出土していますが中期が多いです。代表的な「顔面装飾付釣手土器」を始め、18の土器が県史に指定され、八ヶ岳美術館に常設展示されています。

先人達が創り上げたもの



4 上里開拓記念碑
1945年11月、政府は緊急開拓事業要領を決定。戦災者・農家の次男、三男を担い手に、戦後の食糧難の解決や混乱した生活の安定を図るために行われた開拓のおしるし。

原村の美しい姿を後世に伝えたい！



八ヶ岳の西麓に広がる原村は悠久の昔より、多くの先人たちが自然と調和しながら歴史を積み重ねてきました。紀元前2万年前より、縄文文化が花開き、西麓の尾根筋には多くの縄文集落が林立していました。その後人々は低湿地に移動し、この地は御狩野として大切に保護されました。江戸時代になると新田開発が進みましたが、火山灰地が広がり、水源に乏しく、高冷地であるという難しい条件のもと、先人たちは様々な工夫をしながら水を引き、寒さに耐えながら米を作り、蚕を育て繭を作り出し、豊かな村へと育ててきました。1970年代には農業が中心であった村に、別荘やペンションが作られ、自然の豊かさに魅了された多くの観光客が訪れています。なかには、終の棲家として移り住む人々もいます。人々の営みが歴史をつくり、「美しい原村」が今ここにあります。そうした先人たちの作り出した文化や自然が織りなす四季の変化は村の財産です。この財産を未来に伝える礎として原村百景を作成しました。

原村は2015年(平成27年)10月に「日本で最も美しい村」連合に加盟し、自然と人々が調和し、心豊かな営みと村民のつながりを通して、自立した原村を後世に残すことを決意しました。この表明以来、様々な角度から美しい村づくりを進めています。原村の美しさを再確認し、この美しい姿を後世に残す活動を通して、「日本で最も美しい村 原村」の創造に繋がることがを願います。

2020年(令和2年)3月
原村美しい村づくり推進委員会



事務局：原村総務課企画振興係
電話：0266-79-7922(直通)
E-mail：kikaku@vill.hara.lg.jp



11 虎尾神社石物群
阿弥陀岳の御小屋尾根船山十字路口途中の尾根上にあり、「虎尾大明神」と刻まれた三つの文字碑や御岳社等多数の石碑があります。「虎尾」と称する神社は全国唯一です。

脈々と受け継がれる営み



12 中新田ため池
原村など山浦地方は河川に恵まれず農業用水確保のため汐を掘り、ため池を作りました。現在村には9つのため池があり、いずれも満ちた水を湛え静かな佇まいです。



13 ハッ手機織り保存会
村では布が貴重だった時代、着古した布を裂き敷物やこたつ掛などを作ってきました。ハッ手機織り保存会では「ぼろ機織り」の伝承に努め、3月に展示即売会を行っています。



14 御柱祭
1200年の歴史をもつ7年に一度の御柱祭では、8本の御柱が綱置き場から氏子らの手により木落し、川越を経て上社まで曳いて行かれ、前宮・本宮の御柱が立て替えられます。



15 小宮祭
御柱祭の年には、各地区の神社で同じように御柱を立て替えが行われます。小宮祭は、女性や子ども達も参加し、和気あいあいとした楽しい祭りとなります。



16 どんど焼き
正月明けに村内全区で行われます。竹や木の棒で組んだやぐらに門松や正月飾りを入れて焼き、その火や煙にあたり、枝にさしたまゆ玉を焼いて食べ、無病息災を願います。



17 穂屋祭
諏訪の殿様が御狩野の途中でハッ手で休まれた事から始まった祭りです。ハッ手の辻にある虚空蔵菩薩堂を開け、神輿ぐりを行います。横道沿いには出店なども並びます。



18 菖蒲沢 厄神祭(甘酒祭)
区民の健康と区の安泰を願ひ明治時代から続く通称甘酒祭。役員が区内を回って米を集め、一昼夜かけて仕上げた餅状の甘酒は、大山祇社に供えられた後、区民に振舞われます。



19 菖蒲沢 お神楽廻り
伝統の悪魔祓い。区内の小学生が獅子頭を舞わせ、太鼓を叩きながら区内を巡ります。獅子頭が玄関から入り地の出口に抜けることで、健康で災いのない一年を願います。



20 高原朝市
夏の観光シーズンに開かれ、早朝から別荘に滞在している人やペンションの宿泊客などが詰めかけます。地元の農家やクラフト作家との交流の場となっています。



21 星空のイルミネーション
実行委員が力を合わせて作り上げる「ひかりの祭典」。冬の真つ暗闇の中、星空と光と灯りが織りなす光景は原村ならではのものです。週末には星空市も開かれています。



22 星空の映画祭
真夏の夜だけ星空のもとに開館する野外映画祭。大自然に囲まれた野外映画館としては日本一高い所にあります。星空と一体化した巨大スクリーンは一見の価値があります。



23 ハヶ岳クラフト市
長年続いているイベント。全国からクラフト作家が自慢の作品を持ち寄ります。これらの作品を求めの人々も全国から訪れます。新緑や紅葉の中で、人も作品も輝いて見えます。



24 美しい花を育てる
原村では鉢花や切り花等が生産されています。一株一株にかけられる手間、高冷地ならではの澄んだ空気、昼と夜の温度差が色鮮やかで見事な花を育み、人々を癒しています。



25 柳沢区桜祭り
1987年から「桜祭り」と称し、4月に区民300人位で花見をしています。子ども達の踊りやカラオケなどが催され、年に一度の祭りを子どもからお年寄りまで楽しみにしています。



26 阿弥陀岳開山祭
20数万年前、南八ヶ岳には富士山に匹敵する火山古阿弥岳がありました。大崩落を起こし、阿弥陀岳が生まれたと言われています。頂上では毎年6月に開山祭が開かれます。



27 温泉
地下1300mから湧き出す八ヶ岳温泉は、温泉成分の濃さなどで近隣でもトップを競う名湯です。もみの湯では、広々とした内湯と源泉かけ流しの露天風呂を楽しめます。



28 こて絵
高冷地での農業に苦勞していた農業者たちが、米蔵として大切にしてきた土蔵。左官職人が漆絵を使って立体的に描いた浮彫の「こて絵」が目を引きまします。



29 火の見櫓
火の見櫓と屯所を拠点として、各地区の消防団が住民の生活や資源を守るため日々協力し、訓練しています。その使命は次の世代へと引き継がれています。



30 阿弥陀聖水(大曲清水)
阿弥陀岳の登山口である舟山十字路の近くの湧き水。付近はヤマシロチョウの生息地になっています。信州湧き水50選にも選ばれ、地元では大曲清水とも呼ばれています。



31 農場風景(農業実践学校)
1938年、農業経済の全国的指導者養成を目的に設立されました。広大な農場をキャンパスに畑作、花卉園芸、酪農、養鶏等を将来の農業を支える学生達が実践的に学んでいます。



32 原村ペンションビレッジ
1974年、国内元祖とも言える原村ペンションビレッジが誕生。90軒ものおしゃれな洋風の建物群には、当時「アン・ノ旅」と呼ばれた若い女性達が押し寄せました。



33 オープンガーデン
季節ごとに咲き誇る花々が美しいペンションの庭々。オーナーが丹精込めて手入れしている庭は、一部がオープンガーデンとして一般に開放され、散策することもできます。



34 ハヶ岳に続くアナベル街道
6月になるとペンションビレッジ入口から鉢巻道路沿いに、白いアナベルの花が咲き乱れます。真夏にはうすい緑色に変化し、ドライフラワーとしても楽しめます。



35 ズームライン
エコーラインから八ヶ岳に延びる真っ直ぐな道。景観を保つため、電線は地下に埋められ電柱がありません。沿道の花壇はランダー＝里親事業により綺麗に手入れされています。



36 まるごと収穫祭
芝生の広場に地元の野菜やクラフトなどを販売するふれあいマーケットが並びます。ハウインかぼちゃの加工体験等もあり、1000人分の豚汁の振る舞いも大人気です。



37 よいしょ祭り
1991年から始まった村民の夏祭り。村民からの公募により作られた音頭に合わせて、各地区や団体による踊り達が祭りを盛り上げます。長持ちも披露されます。



38 村民スポーツ祭
夏と冬の年2回、地区対抗のスポーツ祭が行われます。どちらも会場は小学校校庭ですが、冬はスケートリンクが舞台です。大人も子どもも観戦を深めながら競技を楽しみます。



39 星まつり
夏の恒例イベントで、日本最大規模の星まつり。昼夜にかけて星に關する多彩なイベントや望遠鏡講座、星空観望会などが行われます。



40 樺道
甲州須玉から川中島への軍用道と伝えられている通称「信玄の樺道」。1610年開村時に諏訪藩が通行禁止としたため当時の痕跡は無く、現在の道は文献に沿って造成されました。



41 ハヶ岳エコーライン
八ヶ岳西麓広域農道、通称「ハヶ岳エコーライン」は、茅野市から原村を経由し富士見町に至る道路です。諏訪南インターから蓼科高原を結ぶ観光道路としての役割もあります。



42 御柱道
綱を繋ぎ、「めどこ」をつけた8本の御柱が、雪が残っている八ヶ岳をバックに山出し初日に引き出され、氏子らに曳かれて20km離れた諏訪大社上社の本宮と前宮を目指します。



43 汐(せぎ)
江戸時代中期、坂本養川は水利問題解決のため、蓼科山麓の水を元水とし維新汐方式による汐を15年かけて張り巡らしました。その結果、米の生産高は劇的に向上しました。



44 彫刻の森
原村中学校では毎年、卒業生がブロンズ像を作りメッセージを記して、八ヶ岳美術館の裏にある彫刻の森に残していきます。



45 わらによう
わらにようはかつて、田畑を耕す牛や馬の冬の飼料や次の年の農作業のために諏訪全域で作られていましたが、機械化が進み、1960年代には姿を消しました。



46 マレットゴルフ場
村内のお年寄りの憩いの場。標高の高い森林地帯にあるため、自然の中で涼しくプレーができます。鳥の音が周辺に聞こえる人気の林間コースです。



47 原っ子の森
原っ子の森では、子ども達が制限されず自由に遊ぶことができる日が設けられています。木登りや焚火など、いきいきと楽しそうに遊ぶ子ども達の姿が見られます。



48 原小学校スケートリンク
冬の間、原小学校の校庭は水が張られスケートリンクに早変わり。子どもだけでなく大人も滑ることができます。雪解けの季節になると水が抜かれ校庭に戻ります。



49 村民の森
人々が森林と関わり、里山として活用する意義を理解したり、森林を交流や学び、やすらぎの場とすることを目的に専門部会のメンバーが村有の約5haの森を保全しています。



50 長野県原村試験地
1934年の大冷害による被害が高冷地に集中、翌年、苗代問題の解決や高冷地に適した水稲などの品種試験のために創設されました。古い木造の建物が当時を偲べます。



51 御射山道・祓沢(はれんざわ)
御射山祭の時に諏訪大社上社から御射山社に向かう途中、この沢で禊ぎを行い「神威」に入ったと伝えられています。道端に二基の石祠があり、「神幸道」とも呼ばれています。



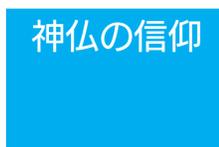
52 収穫に向けて
原村の特産物であるセロリは、育てるのに手間ひまがかかるばかりでなく、たくさんのおいしい水が必要とします。収穫は夜中から行われ、投光器が灯るなか作業が続きます。



53 八ヶ岳美術館
村出身の清水多嘉示の塑像、津金復仙の書を展示しています。建物は建築家村野藤吾の作品で、ドーム型をレースのカーテンで飾り、曲線の柔らかな雰囲気が出ています。



54 原村郷土館・まてのくら
原村郷土館は1955年頃の農村生活の様子を中心に台所や井戸、裏縁側、食器棚、敷地内の様子を復元しています。また、まてのくら(土蔵)が併設されています。



55 教会とパイプオルガン
森の中にあるこの教会は、自然と調和した建物です。教会内のパイプオルガンは、教員有志によって作られました。



56 薬師堂
古い民間信仰の一つに観音信仰があり、民間信仰に備える霊場の巡行を行いました。札所めぐりは人々の生活にも余裕が生まれたことを物語っています。

神仏の信仰